

## 鹿児島県で初めて観察された2例のフルマカモメ *Fulmarus glacialis*

伊藤 圭子<sup>1</sup>・上野 あや<sup>2</sup>・所崎 聡<sup>3</sup>

### Two Records of Northern Fulmar *Fulmarus glacialis* Observed for the First Time in Kagoshima Prefecture

Keiko ITO<sup>1</sup>, Aya UENO<sup>2</sup>, and Satoshi TOKOROZAKI<sup>3</sup>

#### はじめに

奄美大島は鹿児島県大隅半島佐多岬より南南西300km沖あいに存在し、面積は712.35km<sup>2</sup>である。日本国内で佐渡島に次ぐ第9位の面積をもつ島で、日照時間が日本で最も短い。奄美群島国立公園の一部であり、生物分布上も特有なアマミノクロウサギ *Pentalagus furnessi* やルリカケス *Garrulus lidthi* など島固有の生物が生息する。

屋久島は鹿児島県大隅半島佐多岬より南南西60kmの沖あいに存在し、面積は504.3km<sup>2</sup>である。周囲130kmの円形に近い形をした島で、島の約90%が森林で、ほぼ全島が山地である。島の中央付近には九州最高峰の宮之浦岳(1936m)がそびえる。全島が屋久島町に属し、島の21%が1993年にユネスコ世界自然遺産に登録されている。

2017年冬期に本県では初記録となるフルマカモメ *Fulmarus glacialis* (以下、本種)が同年12月に奄美大島で保護のち落鳥(以下、奄美個体)、翌2018年3月に屋久島町で落鳥(以下、屋久島個体)を記録した。それぞれ以下にその記録を報告する。

#### 観察者

伊藤圭子(奄美個体)、上野あや(屋久島個体)

#### 観察日時・場所

鹿児島県奄美市笠利町大島北高校敷地内(28°27'0" N. 129°40'34" E)で2017年12月4日に衰弱している奄美個体を保護した。一般の方より通報が

あり、奄美市笠利支所職員が保護したものである。その後伊藤圭子の元に搬送された。翌日回復傾向は見られたものの自力での採餌はできなかった。12月6日保護先の動物病院で落鳥した。

屋久島個体は2018年3月22日鹿児島県熊毛郡屋久島町永田、永田前浜(28°23'50" N. 130°25'16" E)で、上野あやが落鳥しているものを発見した。発見時すでに損傷がひどく、ハシブトカラスなどの摂食により腹部はほとんど無くなっていた。

#### 形態に対する記述

奄美個体は全身がほぼ一様に灰褐色であり、胴部はずんぐりとしている(図1, 2)。嘴は一様に黄色く、太い嘴の先端は上嘴が鉤爪の様に湾曲し先端が尖っている。上嘴の付け根には嘴の半分にも達する大きな管鼻と呼ばれる2対の管状の構造物がある(図1)。翼は細く長く、先端が尖っている。初列風切の羽軸は明瞭に白い。脚は灰色がかかった肉色で水かきがあり、爪は黒い(図2)。本個体は保護後、落鳥したため標本が鹿児島県立博物館にある(標本番号BI01800004)。その為自然翼長、全嘴峰長、跗しよ長、尾長の計測も行った。その記録を(表1)に記す。計測値をみるといずれの値もフルマカモメの計測値に合致すると考えてよい(高野, 1981)。

屋久島個体は損傷が激しく、腹部は胸骨が剥き出しとなり、内臓は完全に無い。全身が濡れ、腹部を喪失しているために体型は把握できない。長くとがった翼や全身はほぼ一様に灰褐色に見える。脚は青灰

1 ゆいの島どうぶつ病院

2 特養老人ホーム縄文の郷、バードリサーチ会員

3 日本野鳥の会鹿児島県支部、日本鳥学会会員、バードリサーチ会員

色で水かきがある(図3)。上嘴は先端がカギ状で尖っている。頭部に対して太くて大きな嘴には上嘴の半分に達する顕著な管鼻を認めた。嘴の色は青灰色で先端は黄色い(図4)。

以上の外観、とくに特徴的な嘴から奄美、屋久島両個体ともに管鼻類である。上嘴の半分近くに達する大きな管鼻と太い嘴を持つ。また体色はほぼ一様に灰褐色である。そのような特徴を持つ両個体の種はフルマカモメであると判断できる(Perter, 1983; 大西・五百澤, 2014)。体羽はほぼ全身にわたり灰褐色であることから暗色型である(Perter, 1983)。

### 考察

フルマカモメは太平洋と大西洋の北側に広く分布する(Perter, 1983)。日本に飛来する亜種は、*E. g. Rodgersii*である(日本鳥学会, 2012)。この亜種は、千島列島、樺太、ウランゲル島、プリビロフ諸島、セントローレンス島や東シベリアやアラスカの海岸線で繁殖する(Perter, 1983)。日本では本州中部以北の太平洋側海上で一年を通じて観察でき、特に夏季に多い(箕輪, 2007)。九州での記録は調べた範囲内では過去に例がない。沖縄県では1984年1月に金武町と1987年1月に名護市で保護された例がある(沖縄野鳥研究会, 2010)。また東京都八丈島での記録もある(日本鳥学会, 2012)。アメリカでは北緯34度あたりで稀になるといい(Perter, 1983)、ちょうど日本でいえば山口県や四国にあたる。このことから沖縄県や東京都八丈島の記録と併せて、今回の記録は本種本来の分布と考えられる緯度よりかなり南方で記録された事になる。また沖縄県の2つの記録はいずれも1月である。奄美個体と屋久島個体はそれぞれで12月と3月の初めであり、冬季の記録である。南西諸島・琉球列島の記録がすべて冬季にあることから、この時期、同海域で極端に南下するものも少数いると考えられる。



図1. 奄美個体の腹面観(2018年4月4日, 撮影: 所崎聡)



図2. 奄美個体の嘴と背面観(2018年4月4日, 撮影: 所崎聡)



図3. 屋久島個体の全身(2018年3月22日, 撮影: 上野あや)



図4. 屋久島個体の嘴 (2018年3月22日, 撮影: 上野あや)

表1. 奄美個体の計測値 (単位はmm) と日本産鳥類図鑑 (高野伸二, 1981) のフルマカモメの計測値

	奄美個体の計測値	参考
自然翼長	300	283-317
嘴峰長	37.7	36-40
跗しょ長	49.8	45.5-56
尾長	110.1	110-126

## 謝辞

執筆にあたり山階鳥類研究所の平岡考氏に種の同定にあたり貴重なご意見を頂いた。池俊人氏をはじめとして鹿児島県立博物館の学芸主事の方々には丁寧なご指導を頂き、貴重なご助言を賜った。お世話になった方々に対して、ここに深甚の謝意を申し上げます。

## 引用文献

- Peter Harrison (1983) SEABIRDS an identification guide, 448pp., Christopher Helm, London.
- 沖縄野鳥研究会 (2010) 沖縄の野鳥 (改訂版), 367pp., 新星出版, 那覇.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂代第7版, 438pp., レタープレス株式会社, 東京.
- 大西敏一・五百澤日丸 (2014) 日本の野鳥650, 788pp., 平凡社, 東京.
- 高野伸二 (1981) カラー写真による日本産鳥類図鑑, 481pp., 東海大学出版会, 東京.
- 箕輪義隆 (2007) 海鳥識別ハンドブック, 80pp., 文一総合出版, 東京.